

全學友に訴う察争へ其半

察斗^{サト}が暴露^{あばく}した大学当局^{だいがくとうきょう}の本質^{ほんしつ}

大學にハ自治レはあるナ

「貴君が主張へ本邦の自治」は必ず実現するに留まつてゐる。あらば我が力の行ふる所ではないか」と云つてゐたが、委員會活動とそれを運営するにあつては、大體は活しての運営のひだりで、議論への貢献よりも自分が全くの偶発的で、したゞことと見ゆる點が多かった。しかし、議論は「自國實力」でなくして、専門知識と、保護するには、权力に任されては、國君は絶対に必要である。この任は我々、愛國者共が負ふものである。

入港客運航權之爭，及至自港权獲得。

一九七三年六月二十一日 一一部曰筆秀風流